

音楽科学習指導案

学 級 : 3 年 2 組 3 1 人
(男子 15 人 女子 16 人)
場 所 : 音 楽 室
指 導 者 : 教 諭 神 園 律 子

1 題材名 混声合唱の喜び

教材 混声三部合唱「fight」 YUI 作詞・作曲
混声三部合唱「あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～」
(混声のための合唱組曲「時の女神」から) 筒井雅子 作詞・作曲

2 題材について

(1) 教材観

「fight」は、平成 23 年度NHK全国学校音楽コンクール中学校の部の課題曲である。特に 3 年生にとっては受験という大きなプレッシャーの中で過ごすこの時期に、「がんばれ がんばれ」のフレーズが自分への励ましとなる応援歌でもあり、がんばることの大切さをストレートに言葉で表したものである。また、少しずつ大人になっていくことへの葛藤や、繊細に揺れ動く思春期の心情が描かれており、楽曲を通して、自分の思いを重ねて素直に表現できるとともに、ポップス調の曲調や手拍子のアレンジなども中学生にとっては楽しみな一曲である。

「あなたへ～旅立ちに寄せるメッセージ～」の原曲は、混声のための合唱組曲「時の女神」(全 7 曲)の最終曲である。今回使用する楽譜は、クラス合唱でも楽しめるように音域等を考慮し、混声三部、変ロ長調に編曲されたものである。演奏会や卒業式などで演奏できる曲である。

(2) 生徒観

本学年の生徒は 1 年次から積極的に歌う雰囲気があり、学年が上がるごとに合唱活動への取組も活発になってきている。特に、変声期を終えた 2 年次には、どのクラスも技術が高まり、歌声を合わせる楽しさを感じながら学習に取り組んできた。また、学級でどのような合唱を創り上げたいかの思いをもって、合唱を創る姿勢が身に付きつつある。本学級は、学年の中では、合唱活動にやや消極的な学級である。クラスを明るくまとめるムードメーカー的な存在は見られないが、物事を落ち着いて考える生徒が多く、歌詞の意味や声部の役割をじっくりと感じることで豊かな歌声につながることを期待できる。

(3) 指導観

3 年生は、これまで 2 回の合唱コンクールを経験し、合唱の基礎や楽しさを学ぶとともに、楽曲を分析したり、どのような合唱を創り上げていきたいかを思考したりして、学習活動を進めてきた。3 年の 1 学期には、歌うことに視点を置いて、歌い方の特徴をまとめる学習を行った。様々な歌い方の特徴を理解することで、様々な歌唱の知識を広げるとともに、その面白さや基本的歌唱法についても学習を深めることができた。今回、3 年間の合唱活動の集大成となるように、これまでの活動で得た知識や技能を生かしながら、更なる混声合唱の高まりへとつなげていきたい。

3 題材の指導目標

- 声部の役割と全体の響きのかかわりに興味をもたせ、意欲的に歌唱活動に取り組ませる。
- 歌詞の内容や曲想の役割を感受し、どのように表現するかについて思いや意図をもって、曲にふさわしい音楽表現を工夫させる。
- 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し、それらを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。

4 題材の指導計画

(1) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 歌詞の内容や曲想に関心をもっている。 ② 声部の役割や全体の響きに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	① どのように表現するか、思いや意図をもって、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫している。 ② 旋律の特徴、強弱の変化などを知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ、表現している。 ③ 声部の役割や全体の響きを感じ取って、音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについての思いや意図をもっている。	① 歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技術を身に付けて歌っている。

(2) 指導と評価の計画

題材名	時	指導内容	評価規準
混声合唱の喜び	1	○ 「fight」「あなたへ」を聴き、歌詞の内容や曲想について感じたことを、楽曲イメージマップに書かせ、曲のイメージをつかませる。	アー①
	2	○ 音程・リズムをつかむためのパート練習を行う。	アー②
	3	○ 他のパートを意識させ、パートの役割を考えさせて歌わせる。	
	4	○ 歌詞の内容や、曲想を生かした表現の工夫をさせる。	イー①②③ ウー①
	5	○ 曲の構成や速さ、強弱の変化を生かした表現を工夫させる。	
6	○ 歌詞や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現を追求させる。	イー③ ウー①	

5 本時の実際（6/7）

(1) 主題名 「思いや意図が伝わるような曲にふさわしい音楽表現をしよう」

(2) 学習目標

- 混声三部の響きに関心をもって、意欲的に歌唱活動に取り組むことができる。
- 歌詞の内容や、曲の構成・曲想の変化を生かした、曲にふさわしい歌唱表現を工夫しようとすることができる。

(3) 本時の判断基準の設定

評価規準	「音楽表現の創意工夫」 ○ 楽曲をどのように音楽表現するか、思いや意図をもって、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫している。
------	--------------------------------------------------------------------

評価の場面	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展開時におけるどのように合唱を創り上げたいか、工夫したいところを練り上げて、練習を深めている場面 ○ 終末時の仕上げの演奏を基に、合唱練習カードにまとめている場面
評価の対象	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習活動中の観察 (意欲的に合唱活動に取り組む姿勢、歌詞について思考したことを、表現に生かそうとする姿) ○ 合唱練習カードへの記述
判断の要素	<p>ア 大切にしたい言葉やフレーズ、音楽表現の工夫したいところを選び、どのように音楽を表現したいかという自分の思い</p> <p>イ 歌詞とハーモニーやテクスチュア、リズム等の関わり</p>

尺度	判断基準
B	<p>ア 歌詞に視点を置き、大切にしたい言葉やフレーズなど、音楽表現の工夫したいところを選び、どのように表現したいかの意図や思いをもっている。</p> <p>イ 歌詞に視点を置き、音（ハーモニーやテクスチュア、リズムなど）との関わりを感じながら歌おうとしている。</p>
	<p>【予想される生徒の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「がんばれ、がんばれ」の2回目の「がんばれ」を強調して歌いたい。 ○ 「こわれそうな空だって私は受け入れるから」では、不安な気持ちから、それを乗り越えて、チャレンジする強さが感じられるので、後半は、はっきりとリズムを意識して歌いたい。
	<p>【C状況の生徒への補充指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲イメージマップの「歌詞に関する項目」の記述から、大切にしたい言葉に注目させ、どのように歌っていくかを考えさせる。
A	<p>(B状況に加えて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共通事項を踏まえて、歌い方や楽曲の特徴の根拠を明らかにしながら、その楽曲の良さや美しさをより具体的に述べている。
	<p>【B状況の生徒への深化指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ その他の共通事項を知覚し、その楽曲の良さや美しさを自分の言葉で表現させる。

(4) 判断基準Bに到達させるための指導

ア 楽曲イメージマップの活用

- (7) 学習課題の設定につながる楽曲イメージマップの活用を行う。
- (イ) 歌詞に視点を置き、どんな思いで表現したいかの意図が伝わるように、言葉を生かした音楽表現を練り上げる。

(5) 授業の展開

□□□ : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
導入	8分	一斉	1 発声練習を兼ねて、校歌（混声合唱）を歌う。 2 どんな合唱にしたいか発表する。 3 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 言葉のニュアンスを感じながら、自分の思いや意図をもって、言葉を生かした音楽表現をしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 身体をほぐし、歌う準備をさせる。 互いの音を聴き、響きを感じながら歌わせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アー(ア)</div> 楽曲イメージマップを見ながら自分の思いを確認させる。
展開	10分	グループ	4 前時の歌声を聴き、歌詞に注目して、各自が書いたアナリーゼカードの意見を、パートリーダーがまとめ、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> どのように表現したいか、歌詞について具体的に書かれた、アナリーゼカードを抽出させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アー(イ)</div> 自分たちのどんな思いを、どのように音楽表現につなげていくかを出し合いながら、練り上げていく。
開	25分	一斉	5 全体で出てきた意見を共有しながら、練習を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ言葉や大事な言葉、伝えたい言葉に注目させる。 ハーモニーやテクスチャ、リズムと言葉のニュアンスの関連に注目させる。 板書で示し、具体的な共通事項を挙げて、歌詞との関わりに気付かせる。【補充指導】 	
終末	7分	一斉	6 本時の練習したところを振り返り歌う。 7 自分が大切にしたい言葉や思いを生かして歌えたか、合唱練習カードに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を録画する。 表現の変容を確認しながら、本時のまとめをさせる。 	